

協業型IT企業誘致可能性調査業務 質問書に対する回答

	質問事項	回答
1	「Ruby」は優れたプログラミング言語ですが、AI、機械学習、データサイエンスにはやや不向きと捉えられる中、提案の中にどの程度取り入れるべきかご教示ください。	本業務においては、プログラミング言語「Ruby」を活用する企業を提案していただくことは必須条件ではございません。提案内容にどの程度取り入れるかは、御社の判断に基づき、業務の目的達成に最適な形でご提案いただければと存じます。本市が従来から取り組んでいる産業振興施策にとらわれず、独自性や有用性の高い提案を歓迎いたします。
2	製造業やエンジニアリング企業等では組込系ソフトの割合が高いケースが少なくありませんが、調査対象は、IT企業等（定義にもよりますが）に限定されますでしょうか。	IT企業等は「協業型IT企業誘致可能性調査業務委託仕様書」内、「2. 目的」の注釈にある、「IT企業またはIT技術を活用したサービス・製品等を持つ企業や事業者（起業家を含む）」を指します。このうち「IT技術を活用したサービス・製品等を持つ企業や事業者」とはたとえば、クラウドサービスやAI解析ツールを導入して業務効率化を図るサービスを提供する企業、さらにIT技術を活用したAI、ロボティクス、バイオテクノロジーなどの分野で事業を展開する企業も該当します。なお、これらは一例であり、具体的な事業内容については多様な提案を歓迎いたします。
3	調査対象が「市内企業及び県外のIT企業を調査する」となっていますが、県内の市外企業も対象と捉えてよろしいでしょうか。	本業務は県外IT企業等を誘致し、市内企業との協業・連携を目指すものになります。よって、県内の市外企業は対象外となります。
4	企画提案書の頁数の上限はありますでしょうか。	提案書の頁数に特に上限は設けておりません。ただし、プレゼンテーションの持ち時間が20分以内を想定しているため、その時間内で内容が効果的に伝わるよう工夫していただきますと幸いです。
5	本事業の位置づけについて 本事業は、Ruby City MATSUEプロジェクトの他事業と連動することで、より大きな効果を上げられる可能性があると考えています。そこで、同プロジェクトにおいて、2025年度に実施を予定している具体的な取り組みがあれば、ご教示いただけますと幸いです。	Ruby City MATSUE 2.0は「事業化支援」「人材育成」「企業誘致」「コミュニティ」の4つの事業を行い、2025年度に各事業では主に以下のことを実施予定です。 その他の取り組みに関しては、松江市ホームページをご確認ください。 <b>事業化支援</b> ・2024年度にも実施したITを活用したプロダクトアイデアを評価するビジネスコンテスト「MATSUE Tech-Product Award」の実施 ・IT企業の試作開発に対し、経費の一部を補助することで新たなプロダクト創出を図る新たな補助金制度の立ち上げ <b>人材育成</b> ・2024年度に引き続き、こども向けプログラミングコンテスト「Matz葉がにロボコン」の開催支援 ・2024年度に制作したPR映像を子供向け企画に活用する <b>企業誘致</b> ・協業型IT企業誘致可能性調査業務の実施 <b>コミュニティ</b> ・台湾で実施されるRuby Conf.TAIWANへの参加とコミュニティ発展を図り、海外Rubyコミュニティ連携を深める ・松江駅前にある松江オープンソースラボを利用者の意見を踏まえた機能・役割のアップデートを行う